

## 議会報告会実施報告書

開催日時	平成 30 年 5 月 21 日 ( 月 ) 19 : 00 ~ 20 : 30	開催会場	帷子地区センター
出席議員	川上文浩、勝野正規、林 則夫、亀谷 光、富田牧子 出口忠雄、酒井正司、山根一男、伊藤健二、伊藤 壽		
班長	伊 藤 壽		
参加者数	13 名		
実施内容	3 グループに分かれ、平成 3 0 年度予算を主に「議会のトピラ」( 議会広報紙 ) を説明し、その後意見交換を行い、各グループの記録者が発表し参加者が意見等を共有した。次に、議員定数・報酬について、これまでの検討結果及び現状をパワーポイントを使い説明し、意見交換を行った。		
質疑および 主な意見等	<p>&lt; 1 グループ &gt; 報告者 <u>富田牧子</u> 記録者 <u>林 則夫</u> <u>出口忠雄</u></p> <p><b>テーマ</b>「議員の定数と報酬について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定数は敢えて変える必要はないのではないか。</li> <li>・報酬は議員として一生懸命やっていただけなら 上げてもよいのではないか。</li> <li>・若い人に可児市を良くするための意欲を与えるなら、報酬を上げれば、良い人材が出てくるのではないか。</li> <li>・地域の声を市政に届けるためにも、定数は現状でよいのではないか。</li> </ul> <p>Q : 今は、議員年金は無いのか？ A : 今は無い。</p> <p>Q : 40 万円では年金も退職金もないのでは、生活給としては厳しいと思うので、上げてもよいのではないか。 A : 意見として報告させていただきます。</p> <p>Q : 正副委員長手当をつけようとしているが、他市町ではどうですか？ A : 手当をつけている議会はあります。</p> <p>Q : 政務活動費 2 万円/月では少ないのではないか？ A : 大垣市は 5 万円/月を廃止した例もある。考え方はいろいろです。</p> <p>『総務企画委員会所管分』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東美濃ナンバーに対する市民周知期間が短かったこともあるが、反対意見が多かった。こういう調査はそもそも最初は反対が多くなる傾向にある。</li> <li>・東美濃ナンバーに対する情報発信不足が原因で、アンケートの「どちらでも良い」という割合が多くなったのではないか。</li> <li>・7 市町のアンケートにおいて、反対が多かったのは「東美濃」が多くの市民になじみがなかったのではないか。</li> <li>・岐阜医療科学大学誘致において同じ轍 ( 名城大学の撤退 ) を踏まないようにされたい。</li> </ul> <p>Q : CATV の告知放送器がなくなると耳にした。今後はどうなるのか。割り込み放送はあるが、市民はいつもラジオを聴いているわけではないので、続けて</p>		

ほしい。

A:(終了後)H30.3.31 故障交換対応終了。H30.9.30 本サービス終了となる予定。

『建設市民委員会所管分』

- ・新可児駅前の整備(子育て拠点施設、区画整理)は良いことである。併せて西可児駅前の整備も進めて頂きたい。
- ・団地内の都市計画道路の進捗が全くない。都市計画税を支払っている帷子地区の住民として、是非進めていただきたい。

『教育福祉委員会所管分』

「不妊治療の助成について」

- ・図書館(帷子)は通路が狭く、ゆとりの空間が無いこと、全体的に暗いので対処されたい。

<2グループ> 報告者 酒井正司 記録者 山根一男

テーマ「議員の定数と報酬について」

### 平成30年度可児市予算についての質疑・意見

(岐阜医療科学大学の問題)

○18億円の予算について、長期的な効果は見込めるのか。

○それだけ多額の予算を投ずるならば、例えば「健康寿命 日本一のまち」を目指すなど目に見える形の効果が見込めるならば良しとしたい。

○可児市は、大阪等に比べてもアパートの家賃が高い。相場的には4万円くらい。もう少し安くしないと下宿生が離れてしまう。

○大家さんが近くに住んでいるなど、安全安心面で納得できる物件を用意する必要がある。

○空き家を活用した、シェアハウスなどを整備するなど安心して、家賃も安い物件を用意する必要がある。

○シェアハウス等への改装には250万以上かかる、そのような改装に市が助成する制度をつくってほしい。

### (可児市子育て健康プラザ『マーノ』について)

○開館当初は人が多かったが、すでに人が少ない。建物はいいものができたが、人を集めるためのソフトの部分はこれからだと思う。

○絆ルームが土曜日は使えないのはもったいない。

○レストランのメニューが少なく、魅力に欠ける。

○西可児からは、可児駅前は遠く、よほど魅力がないと行く気になれない。

### (アーラについて)

○主劇場等でも稼働率は半分もないので、もう少し活用すべきだ。

○可児交響楽団など、地元のオーケストラや多治見や美濃加茂のように、ライブや有名なアーティストを呼んでほしい。

○文化とか、子育てとか敷居が高く、今はアーラに行きたいと思う催しは少ない。

**(議員定数・報酬について)**

○議員は専業の方と兼業の方どちらが多いのか。また、選挙にどれくらいお金がかかるのか。

○議員報酬は月額でしか書かれていないが、年収で表示すべきではないか。

○政務活動費 月2万円は少な過ぎる。そちらをアップするべきではないか。

○報酬額は妥当だが、増やすならその財源として議員数を減らすべき。

< 3グループ > 報告者 伊藤健二・亀谷光

記録者 伊藤 壽

**テーマ** 「議員の定数と報酬について」

○予算

・ Q : 国民健康保険事業特別会計が前年度に比べ減額となっているが、その理由は何か

A : 医療費は増えているが、平成30年度は、県に統一され、国保税は引き下げた。制度の改正により交付金が減額となり、これに係る歳出も減額となったためである。

・ 予算修正したことは、議会としては良い動きではないか。緊張感が生まれる。

『総務企画委員会所管分』

○岐阜医療科学大学について

・ Q : 岐阜医療科学大学への18億円の助成について、18億円は多い、議会としてどう評価したのか。なぜ18億円なのか。

A : 総額46億円で看護学部は借入金とかで手当てできるが新しい学部の設置に関しては自己資金でやりなさいという文部科学省の基準があって自前の金でやる。資本金はそんなにないということで、足らずまいの20億円を出してくれという話があった。

・ 市民にどう還元するのか。

・ Q : 薬学部を作るので、全体ではどれだけか。

A : 約39億円の事業費がかかる。その内、約半分の20億円を賄わなければ建設着手していけないという話だった。

・ Q : 18億円は、貸すのか、あげるのか。

A : あげてしまう。

・ Q : 誰が得するのか。

A : 市民の方に還元する。

・ どうして還元するのか。サッカー場でも作った方が良く。子どもが減っているのに可児市が負担してまで造らなければいけないのか。根拠がはっきりしない。学校の設備を良くしようという事に持って行かないのか。そういうところに予算を割いた方が子どもが喜ぶ。

・ Q : 良く議会で審議したのか。

A : 名城大程度で良いと思ったが、18億円となった。

・ Q : そんなに大学が必要か。

A : 名城大があのような状況になることを予期しなかった。名城大学の跡地をどうしようかという事が大きな課題であった。何回も協議した結果、通常の学生ではなく高齢者が増えるなかで、看護師、薬剤師が増えてくることは、現場に合ったことで、良い事ではないかという事で、議会も市も決めた。  
・ 犬山から大学への通学バスは出さない約束だと聞いているが、まず西可児駅までは来てもらおうと、そこから徒歩なのかバスなのか分からないが、西可児駅といっても何もしなかったら通過点ではないか。学生たちが集うような憩いの場とか施設なりお金を学生が落としてくれるような計画は考えているのか。

・ 寮を学内に作らないということだが学生に住んでもらうために、市としてどの様な事をするのか。何も見えてこない。具体的な方策が何も出ていない。

・ 薬学部、看護学部という事で、男性より女性が多い大学ができることになる。女性が多いという事はどういう事か、どういう生活状態になるのかと大学に聞いたら、今の状態でみると4割が学生寮に入っている。ところが、ここでは学生寮を作らない、当然地域に住んでもらうべきだと思う。団地の空家が300を超えている。空き地も300以上ある。バスはどのような動きをするのか。どういうまちづくりをしていかなければいけないかという事が一番肝心な問題としてある。これは市長に対し、市に対して言うべきことである。

・ お金を使って大学を呼ぶ、帷子という所に、充実させていくなら、どういうまちづくりをしていくか、どういうことが一番重要な問題ではないですか、ということ提案する。該当する地域がどうゆうことを受け身としてやっていくのか。

・ Q : 金額が決まるとき民間だったら「目論見書」というものを作る。18億円出して、それが何年で回収できるかと、お金では変えられないが、こいうメリットが地域にもたらされる、活性化という事でということで、これだけのことが実現するという事で、市としては18億円を出したいがいいですかという事で、市民に聞きながら決める。金額だけが2分の1という事で決まっていて、これに対する見返りというか何が良くなるかという事が市の方からは出ていない。出ていないのなら大問題である。

A : 一応出ている。近くに薬学部とか専門性を持った大学ができ、市民も活用できる。

・ 若い人達が何かしら経済効果を生む、その施策は、何かあるのか。若い人を留めておける方策を考えているのか。

・ 空き家が300ある。全てシェアハウスにできないか。車ではなく電車ではないとダメである。学生が来ると来た瞬間に何を考えるか。ほぼ高齢者ばかりの限界集落に対して何か私たちにできることは無いのか。何かビジネスが起るかもしれない。空き家を借りてくれることにより近所の高齢者の見守りにもなる。そういうことを考えているか。そういう深いところまで読めるか。

・地域にとっても魅力ある案でなければいけないし、来る学生にとっても効果ある案でなければならない。女子学生は、親の立場からすれば、寮に入って欲しい。団地の空き家を利用したシェアハウスにはいかないこともある。よく突っ込んだ検討が必要である。

・ Q : 空き家対策の一つとして学生を活用できないか。今の空き家そのものでは無理であり、そのような観点で。

A : 4年の学部と薬剤師は6年であり結構長いスパンになり、地域の中に安全で安心して帰ってくる空間をまちづくりの一つとして作っていくかである。

・ Q : 本気になってミニサイズでもスタートできれば可能性が広がって行く。

A : 公式ではないがアパート経営をしている人が、受け皿として利用できないか議論している。

・名城大の学生が何故可児市に住まなかったか、居つかなかったかを調べるべきである。この様調査が何もできていない。18億円出すのは良いとしても、それにより可児市をどうしたいか、西可児再開発を考えなければいけない。

・人口がどれだけ増え税収がどれだけ増えるか全部出して、その上で経済効果がどれだけあるからこの様になると出し、その上で本当にそれが正当なのかを議論するのが議会の仕事ではないか。

・今のままでは西可児にお金を落してくれない。ファッションの店や飲食店も無い。考えて欲しいのは学生の先である。介護施設でのアルバイトができるかとか、紹介など総合的に考えて欲しい。

・まちをつくりたいのか、それともそのままにしたいか、若者の代表として言わせてもらうが、そこをはっきりして欲しい。でないアイデアも出したくない。だから西可児で活動しよう、活躍しようと思わない。

・ Q : 今だと18億円は執行できるのか。

A : 執行できない。

・ Q : 凍結してあるか。

A : 申請をしていないので、大学を作るといふ何の保証も担保も無い。

・ Q : タイムテーブルは。

A : 平成32年4月に大学が開校予定となり、来年の8月頃までに決定され、32年3月31日に出す。

・ Q : 18億円は、使えない訳か。

A : 宙に浮いている。

・1年かけてしっかり議論して欲しい。

・この金かけるなら、進退をかけること。

・1回で1期の学生を満室にできるくらいの魅力のあるまちにする、そういう発信ができるのか。進退をかけるべきである。そのうえで、有権者が審査すべきではないか。若い人達もそんなに黙っていないと思う。どれだけあまえているのか知らないが、聞いていてたるい。覚悟を決めてこういうふうにしますとやった方が良い。

・企業だったらやる。市は倒産しないからあまい。

- ・人のお金を使って市政を回しているという感覚が無い。人が払っているお金を使って市政を回しているという感覚が無い。
- ・税金がどうやって払われているのかを一切考えていないからこういうことが出来る。

○その他

- ・各地域自治会でやっていることの全体像を市役所は把握していない。総合指令塔を設置して現状を把握し、やるもの止めるものを区別し水平展開するものをきっちり再整備すべき。

議員定数・報酬について

- ・減らすことには賛成である。理由は、議員の質を高めること。少なくなれば質は上がると思う。そのうえで報酬を見直しても良い。
- ・議員定数を20～22人で検討しているが、曖昧なことを持ち出している。
- ・22人の現状維持で乗り切ろうとしているかもしれないが、これには反対である。減らすべきである。理由は、議員の質を高めることになるから。
- ・立候補者数と当選者数の比率を考え、その視点も入れて定数を見直すべきである。
- ・議員数を少なくしたら質は上がると思う。そのうえで活動が今の議員報酬で賄えないというなら、見直しても良い。順序が逆である。
- ・なり手が少ないから報酬を増やすというが、これは全くおかしいと思う。
- ・議員報酬を生活給ととらえることは間違いである。
- ・可児市位の規模なら兼業であるべきである。別のことで金を稼いだうえで議員として活動して報酬を得れば良い。議員だけで食っていけないから報酬を増やせという発想はないと思う。
- ・Q：委員会の定数は7名とはなぜか。  
A：奇数なら良いという議論もあった。7人が自動結論されるという根拠は何もない。あくまでも討議がし易いかどうかである。一定の議論性と主観的判断もある。
- ・5人だと議員定数が15人になる。可児市の規模から5人にはならないだろうが、議員って何か。その根拠を出さないといけない。先に結論があって、どうゆう計算式があるかだから。
- ・議員報酬40万円が高いか、安い。専業でやったら安いと思う。市議会議員でどれだけ兼業ができるか。
- ・専業でない方が、良い市議会議員が出るのではない。市議会議員という立場で兼業で事業ができる人がどれだけいるのか。それであれば、次落選しても生活はできるという一つの考え方である。
- ・生活費が足りないから議員報酬を上げろと言うのだったら、議員報酬を上げるという理由と根拠を示すべきである。
- ・どれだけの成果を出したかを市民に示すことが必要。
- ・成果をどういう形ですか。評価の方法は、市民の判断が良い。
- ・議員の方が、40万円の報酬を貰ったが、これだけの事を行ったので十分

値するだけの仕事を行ったという説明をしなければいけない。

- ・法律に基づいて形を整えているだけなら、800万円でAIが運用でき、議員はいらなくなり、市長すらいないという話になる。
- ・Q：年収で話をすべきではないか。民間との比較が分からない。  
A：年収約700万円である。
- ・年収700万円という事でないと、民間とボーナスなどどうなっているか分からない。
- ・Q：期末手当はあるか。  
A：ある。
- ・Q：政務活動費は、どれだけか。  
A：月額2万円、年間24万円である。
- ・政務活動費は、いつも問題になる。報酬に入れた方が良い。
- ・Q：自治連の要望は、定数は減らせ、報酬は増やせということか。  
A：増やせとも言っていない。適切なレベルにせよと言っている。
- ・40万円で視察等を支出する事は厳しい。
- ・報酬を減らしたら議員が求めにくくなるという発想は止めてもらいたい。報酬を減らしたら議員になりたい者は増える。
- ・実費は支給するから、成果を市民に見せること。
- ・少ない報酬でいい仕事をすれば、評価される。
- ・魅力ではない。自己責任で金を稼げる方が、楽しいから。市議会議員になって市のためにやろうという者はいない。
- ・ビジネスライクで考えたらいい。
- ・お金だけの問題ではない。生きがい、やりがい、人の評価が総合的にリンクしている。
- ・議員定数の削減  
「定数削減すると、議員を失う地域の声をどう市政に届けるか」の課題  
現在満遍なく地域から議員が出ているのか？また今後も保証があるのか？  
議員が出身地の声を、いつ・どこで・誰から・どういう手段で・どのように・どれくらいの頻度で聞いているのか？・・・自治会役員等は別にして一般住民との接触はどうしているのか？見えない。 定点観測をしているのか？  
地元利益誘導型では困る。地域の声は尊重すべきだが、最重要視は不要。可児市100年の計を見据えた活動をすべき。
- ・議員報酬の削減  
報酬は年収で考えるべき。河村名古屋市長 = 800万円、名古屋市議 = 1,633万円 800万円 1,455万円
- ・政務活動費の給料への組み込み

平成30年5月28日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 帷子地区センター会場 班長 伊藤 壽